岡田宮

—(宝永4年) 1707年 貝原益軒書—

第 10 号
平成2年7月吉日
発行　岡田宮社務所
北九州市八幡西区岡田町1番地
郵便番号806
電話621-1898

岡田神社二千六百五十年祭

ご奉賛のお願い

3月3日、地鎮祭にて「苅初の儀」を行う末益友之助奉賛会々長代行

五十年に一度のご改築を行ないますので
何卒ご奉賛をお願い申し上げます。

一口　一万円

※口数に制限はありません。
※御芳名は記念碑に刻み永久保存いたします。

夏越祭

(七月二十九日)

輪くぐりの絵

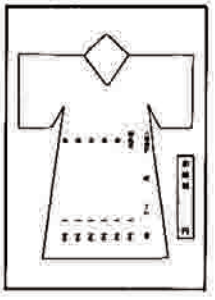
夏越の大祓神事を七月二十九日午後六時より執り行ないます。

社頭に茅(カヤ)の輪を設け、その茅の輪をくぐれば、悪疫を免れ幸福と繁栄とを招来するという古式に則った夏越祭を厳修致します。

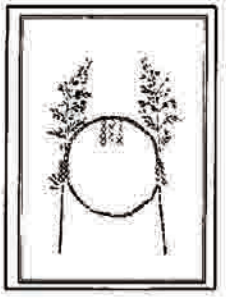
ご参拝の方は上記の形代に御家族の住所、氏名、年令とを書いて、各自の息を吹きかけ初穂料を納めお参り下さい。

ご参拝の方には「お札」と「茅」を授与致しますので、魔除として、玄関に奉斎して下さい。

当日、お参り出来ない方は前もって社務所で形代をおあずかり致します。



形代（裏）



形代（表）

産土大神　守護

七五三

七五三祭は、子どもの成育にともない折り目、切り目に神社にお参りして、いっそうの息災成長を祈る行事です。

三歳の祝いを髪置、五歳の祝いを袴着、七歳の祝いを紐落などと称しますが、これらの名称や、その年齢は地方により、時代によって必ずしも一定しません。ともあれ、七五三は江戸時代から、広く行なわれた行事で岡田宮では、十一月十五日を当日とし、その前後を通じてにぎやかなお参りが行なわれます。

なお、平成二年の七五三の年齢は、左記のとおりですので、ご家族おそろいでお参り下さい。

記

三歳　昭和六十三年生
五歳　昭和六十一年生
七歳　昭和五十九年生

※年齢はかぞえ年です。

神道の生命観

日本民族の生命観は、外国人の生命観とは全くちがいます。日本人は、命は遠い遠い大昔のご祖先からいただき、伝えられて来たものと考えています。そのご祖先を私どもの神さまとしておまつりしているのですから、日本人の生命は神さまからずうっと続いていることになります。両親の祈りによってこの世に生れ出た私どもは、このからだは両親からいただきましたが、その生命のもとは神さまにあるのだと信じています。これに対して、外国人の、特に西洋人の生命観は全然ちがいます。まず「神」がちがいます。西洋人の神は、人間とは血も心もつながっていないもので、ただ恐ろしい力をもって人間にのぞむ存在とされています。そのため、神と人との関係は、人それぞれの信仰によって神と結び付いていますから、親も子も他人も、すべて神の前には一個の人間として平等です。したがって人間の生命は個々のものであって、親子代々連続するのだという考え方はありません。日本人の生命観は永遠に連続するものだというのに対して、外国人の生命観は個々のものであって連続しないというのが普通です。

連続する生命が確められる機会は「まつり」です。まつりは生命の根元である祖神をまつる機会ですから、おまつりすることによって、祖神につながる自分の命を確めることができます。そして自分の生命は、自分の次の代の者、すなわち子供に伝わることはいうまでもありませんから、まつりの時には祖神の生命の延長の最も若い者、つまり子供を祝福することにつながります。日本のまつりのほとんどが、必ず子供の参加を必要としているのは、そのことを物語っています。生命は、ムスビという生命を生み出す働きによって出現します。このムスビが、一切のものの連続するもとになっているのですから、おまつりは祖神のムスビの御心を体して感謝申し上げ、お願いをする姿となります。このおまつりが数千年の間続けられて来たことは、ちょうど子供が親に対してすべてを打明けて、そのお守りをいただいて生活するのと全く同じことです。

生命は神のムスビの働きによって生まれますけれども、その生命も丈夫にしっかりと育てねば何にもなりません。たくましく生き生きと生き続ける生命は、人間の生命ばかりではなく、この国の生命とともに常に新しく若々しく保つように手入れをしなければなりません。それが古典に見えるところの修理固成（つくりかためなす）ということです。ムスビと修理固成が繰返されながら、生命は連続します。祖神より伝えられた生命は、かくて民族の中心であられる天皇陛下をいただいて結び合い、この国も人の心もしっかりと固め、進んでゆくのです。その営みの節々（ふしぶし）が、日本中の神社や家庭で行なわれている「まつり」というものであります。もう何千年になることでしょうか。繰り返し繰り返し続けられて来たまつりの精神が、絶えず日本人の生命を清新に保って来ました。こう見てくると、最も古くして最も新しい道が、神道という「神をまつる」民族の生き方ではないでしょうか。この祖先の神をまつる道がほろびる時は、この国の運命の終る時となるでしょう。

神社なぜなぜ問答（その9）

問　新嘗祭や大嘗祭は、天皇が御親ら新穀を神々に捧げ、また御親らもお召し上がりになる祭りと伺っております。皇室と稲との結びつき、神道と稲作の関係について教えて下さい。

答　わが国の稲作の歴史は弥生時代に始まったといわれています。

それ以前にも、神道的なものの萌芽はありましたでしょうが、やはり、稲作を基盤として生活を営み、国家・社会のしくみもその生活実践を基礎に形作られるようになって、神道も骨格が整ってきたと考えられます。

そうした生活実践の節目節目に祭りがあり、国家・社会の中心に天皇さまを仰いで今日に至りました。この歴史のなかで稲と神道、また皇室とは深い精神的な関わりが形成されています。

このことの基本となる考え方は「記紀」の神々の物語に示されています。

まず「記紀」には、天照大神の稲作のことが記されています。また天照大神は新嘗（大嘗）を聞し召されてもおられます。

そして、天照大神はこの高天原で作られていた稲を、瓊瓊杵尊が葦原中国に降臨されるときに「吾が高天原にきこしめす斎庭の穂をもって、また吾がみこにまかせまつるべし」とおおせられて授けられました。

これは「斎庭の稲穂の神勅」と呼ばれます。

以来、御歴代の天皇さまは大神の高天原での御手振りのままに新嘗・大嘗の御祭りを斎行してこられました。

こうして、稲作の豊饒と国民生活の平安とを常に祈り続けられてきた御方であればこそ、長い歴史を通じて国家統合の中心として仰いできたのです。

郷土地名考 ⑩

大塚　旧前、熊西中学校の所にあったが、中学校の校地造成に際し塚は消滅。『筑前国続風土記』は「麻生氏の塚なりと云。里人御廟所のもとと称す」とあり、『同拾遺』は「周十間斗、石垣を六角に築き封土の上に圓石一在。梵字を四方に彫たり」とある。現在、山寺町五―四に「大塚宮」として祀られている。五輪塔残欠を合せ祀る。藤村丹後守屋敷と関連を有するか。

御手洗清水　御手洗公園の一角にあり。湧き水で池を満たしている。昔八所神社の神井であったという。御手洗公園の名はこれに因んでいる。

太刀洗池　一宮神社の下にある。天慶の乱と結びつけられているが真偽の程は定かでない。

編集後記

- 本年は、岡田神社の五十年に一度のご改築の年です。工事も順調に進んでおり、十月の落成式が楽しみです。
- 好評の「神社なぜなぜ問答」皆様のたくさんのおたよりをお待ちしています。
- 祝祭日には国旗を掲げましょう。
- 一日、十五日には神社にお参りしましょう。